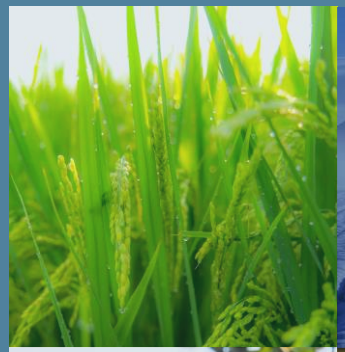
里山に息づく
営みから
地域を読み解く

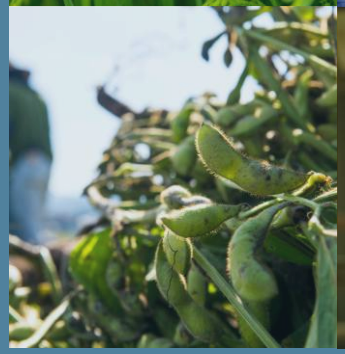
里山探究プログラム in 丹波篠山

Satoyama Quest in Tambasasayama

はじめに

丹波篠山へようこそ





里山に息づく営みから地域を読み解く“ 里山探究プログラム in 丹波篠山 ”

本企画は、丹波篠山で受け継がれてきた暮らしと仕事のあり方を、実際の現場で体感しながら学ぶ探究プログラムです。
農業やものづくり、歴史や自然、子どもの居場所づくりまで、風土に根ざした多様な営みには、土地を生かす工夫と、次の世代へ手渡すという強い思いが息づいています。そうした人々の営みは景観にも表れ、城下町と田園が重なる日常の風景が、学びの舞台となります。

城下町地区と福住地区は重要伝統的建造物群保存地区に指定され、白壁の町並みと田園が連なる景観は、この地域の誇りです。
約850年続く丹波焼（立杭焼）は日本遺産として認定され、今も数多くの窯元が技と創造性を磨き続けています。

農業では、黒大豆栽培をはじめとする里山の営みが、多様な生き物と暮らしの景観を育み、日本農業遺産として価値が認められています。
さらに丹波篠山は、クラフトやフォークアートの創造性が評価され、ユネスコ創造都市ネットワークにも加盟。
地域資源を未来へつなぐ取り組みが、国内外から注目されています。

本プログラムでは、なぜこれらの営みが続き、どのような工夫で未来へ継承されているのかを、観察・対話・体験を通して探究します。
丹波篠山というフィールドでの出会いが、一人ひとりの視野を広げ、新たな問いと次の一歩へつながることを願っています。

プログラムについて

里山の資源を活かし･守り･次世代へ手渡す地域のしくみを手がかりに、
自ら問いを立て、現場で確かめ、関係者との対話を通じて、
自分なりの答えと次の一歩を形にする“探究型教育プログラム”。

各施設や取り組みの意義と本質を、当事者から直接学ぶ。観光農業による魅力発信、歴史的景観の保全、獣害対策と里山の保全、場所づくりと子育て支援、丹波焼の継承と創造を通じて、社会と関わる働き方を具体的に描く。

地域探究

城下町と田園が連続するフィールドで、観察や聞き取りによる情報収集を行う。資源の活用と保全、人と自然の共生の仕組みを読み解き、地域の成り立ちと現在をつなげて理解する。

キャリア学習

SDGs学習

自然･文化･経済の視点から、地域が持続可能に発展していくための課題に向き合う。現場で得た学びをもとに、実行可能なアイデアを構想･提案し、実践へとつなげる。

Why?

からはじめる
“探究型教育プログラム”

プログラムについて

各テーマのフィールドワーク × グループワーク。
仮説 → 調査 → 提案のサイクルで、地域課題の解決策を考える。

01 事前学習

自ら問いを立てる

- 課題研究
- 事前調査

生徒一人一人が何を学びたいかを考え、テーマを設定。事前調査を通じて、自らの“問い”を立てる。

02 現地学習

体験・情報収集

- 現地学習
- 講話・ワークショップ

自らが立てた“問い”に対し、体験や見学、交流を通じて気づきや答えに対するヒントを得る。

03 事後学習

掘り下げる

- リフレクション／振り返り
- 自分ごと／ビジネスアイデア

現地学習を振り返り、どのような気づきや学びがあったかを整理し、自らの“問い”に対して答えを導く。

グループワークや発表を通じて、インプットだけでなくアウトプットを行う ⇒ 実践的な学び

スケジュール例

日帰り1日プラン　プランA

10:00	課題解決型プログラム（Aプラン） フィールドワーク（体験）やワークショップを通して、学びを深めます。
12:30	お昼休憩
13:00	町歩きプログラム 丹波篠山の城下町を街歩きしながら班別研修します。
16:00	プログラム終了

1泊2日プラン　丹波篠山市内に宿泊します！　プランA ＋ プランB

1日目 （10:00～15:00）	課題解決型プログラム（A＋Bプラン） 1日を通して、フィールドワーク（体験）やワークショップを行い実践的な学びを深めます。
2日目 （10:00～13:00）	町歩きプログラム 丹波篠山の城下町を街歩きしながら班別研修します。

※ 時間などにつきましては、可能な範囲で調整いたします。詳細はご相談ください。
※ Aプランは午前・午後いずれの実施も可能です。詳細についてはご相談ください。
※ ご希望に応じて昼食などの食事（地元の食文化体験など）のご用意も可能です。

MAP

丹波篠山市へのアクセス

丹波篠山市は、兵庫県の中東部にあります。
里山の景色が広がる自然豊かな市です。阪神都市圏近郊にあり、神戸や大阪からは電車や車で片道1時間程度でアクセスできます。

	タイプ	プラン名	目的	場所	ページ
1	課題解決型	フィールドスタディ―で食と農の本質に迫る	農業のしくみ・価値・課題を対話と実践で多角的に読み解く	丹波たぶち農場	P.6～9
2		丹波焼の技と心から“継承と創造”を学ぶ	丹波焼の“成り立ち・技・魅力”を読み解く	立杭陶の郷	P.10～13
3		里山の保全と地域の未来を考える	里山の実態を学び持続可能な未来を探る	NPO法人 里地里山問題研究所	P.14～17
4		体験型ミュージアムの役割と運営を多角的に学ぶ	利用者と運営者の視点から“学びの場”の設計を考える	篠山チルドレンズミュージアム	P.18～21
5	町歩き型	城下町の魅力と保全の意義を考える	城下町の散策と対話型ワークショップで歴史探究の面白さと意義を体感する	篠山城大書院、歴史美術館 青山歴史村・デカンショ館 武家屋敷安間家史料館	P.22～34

課題解決型

農業のしくみ・価値・課題を対話と実践で

多角的に読み解くプログラム

フィールドスタディで食と農の本質に迫る

学習のねらい

- **作物が食卓に届くまでのプロセスを知る**

  自然条件や作業工程、販売までの流れを知り、“食の背景”を理解する。

- **農家が向き合う課題と工夫を知る**

  気候、人手、コストなどリアルな課題に触れ、続けていくための工夫を考える。

- **体験を通して農業の価値を捉え直す**

  農業への貢献は、“作る”だけではない。多角的な視点から、農業の役割と支える方法を考える。

自然にも体にも優しい農業

farmer

日本の農業は、約40年前に大量生産と効率化を重視する近代農業へと大きく変化しました。私たちはその流れの中で、あえて量を追うのではなく、技術を磨き、知識を深める農業を選んでいます。本当においしく、体にもやさしい農業とは何かを問い続け、丹波篠山の風土が本来もつ生命力を引き出す方法を大切にしてきました。

Real Story

丹波たぶち農場 専務 田渕泰久

丹波たぶち農場は、水稲・黒大豆を中心に市内に85ha・450枚の圃場を栽培しています。ほとんどの農作物は自社販売し、黒枝豆狩りやいちご狩りの観光農業にも取り組んでいます。農業は正直、楽な仕事ではありません。でも、土と向き合い、自分で考え、工夫した分だけ結果が返ってくる仕事でもあります。今日の体験が、農業や食との向き合い方を考えるきっかけになれば嬉しいです。

項目	プランA	プランB
実施場所	丹波たぶち農場	
実施時間	10:00 ～ 12:30	10:00 ～ 12:30
実施人数	40名まで	40名まで
実施費用	2,500円(税込)	4,500円(税込)
ご注意	※汚れても良い服装歩きやすい靴でご参加をお願いします。 ※【Bプラン】味覚体験は時期によって黒大豆・果実・お米などのいずれかになります。	

プランA　丹波たぶち農場　田渕さんと一緒に巡る

食と農のリアルから農業の未来を考える

10:00	丹波たぶち農場　集合
10:05	**イントロダクション（15分）** 農業って大変？ でも実は、発見があふれるワクワクの世界。農家さんの課題と工夫にふれ、“新しい農”の可能性を感じる。食の裏側をのぞきながら、未来の農の姿を楽しく想像しよう。
10:20	**フィールドワーク（70分）** 土の香りと陽ざしを感じる、農の“いま”を体験。多彩な作物の畑をめぐり、農家さんの知恵と挑戦にふれる。 農業の本質と未来のヒントを、楽しみながら見つけよう。
11:30	**ワークショップ（45分）** 現場のリアルから読み解く、農作物の“値段の理由” 価格に隠れた努力と価値を見つけよう。 見て、知って、考える、“農作物の値段のしくみ”
12:15	質疑応答（15分）
12:30	終了

プランB　丹波たぶち農場　田渕さんと一緒に考える

地域と農を支える観光農業をデザイン

10:00	丹波たぶち農場　集合
10:05	**イントロダクション（15分）** 農業の大変さの中にも、“観光”が加わるとワクワクが広がる。どんな工夫で農が体験コンテンツになるのか、現場で発見しよう。観光農業の仕組みと面白さを、ぎゅっと体感できる時間です。
10:20	**フィールドワーク＆味覚体験（90分）** 畑や加工場をめぐり、“農の魅力を観光に変える工夫”を体感。地域の作物を味わいながら、その価値と想いにふれる。農が人を惹きつけるコンテンツになる瞬間を、リアルに感じよう。
11:50	**ワークショップ（25分）** 自分だったらどんな観光農業をつくる？を考える。 フィールドワークでの気づきからワクワクする企画をカタチにしよう。完成したアイデアをグループごとに発表！
12:15	質疑応答（15分）
12:30	終了

食と農のリアルから農業の未来を考える

身近な食と農業をテーマに、
自分なりの疑問“Why”を
探してみよう！

事前学習

1. 農業の仕事と課題を調べよう
農業には一年通じてどんな仕事がある？

2. 農業の仕事と課題を調べよう
農業にはどんな費用がかかる？

3. 農業の仕事と課題を調べよう
日本の農業にはどのような課題やリスクがある？

4. 農業の価値と自分との関わり方を考えよう
農業で一番大変だと思う点は？

5. 農業の価値と自分との関わり方を考えよう
農業を続ける理由・やりがいは何だと思う？

6. 農業の価値と自分との関わり方を考えよう
現地で農家に聞きたいことは？

プラン
B

Satoyama Quest in Tambasasayama

ワークシート

地域を支える観光農業の未来をデザイン

地域や農の魅力を発信する観光農業について、自分なりの疑問“Why”を探してみよう！

事前学習

1. 観光農業のしくみを調べよう

観光農業とはどんな取り組み？

2. 観光農業のしくみを調べよう

観光農業で必要なスキルや施設は何？

3. 観光農業のしくみを調べよう

観光農業が地域に与える良い影響は？

4. 観光農業の価値とアイデアを考えよう

観光農業の価値はどこにある？

5. 観光農業の価値とアイデアを考えよう

いままで、観光農業に行ったことはある？どこで何をした？

6. 観光農業の価値とアイデアを考えよう

農家ならどんな観光農業がしたい？今までにない観光農業とは？

課題解決型

丹波焼の“成り立ち・技・魅力”を読み解くプログラム

丹波焼の技と心から“継承と創造”を学ぶ

立杭陶の郷

学習のねらい

◆**丹波焼は、どのようにこの地で生まれ、受け継がれてきたのか**

丹波焼の歴史・特徴・製法を学びながら、自然環境や暮らしと焼き物づくりがどのようにつながってきたのかを読み解く。

◆ **焼き物を“化学の目”で読み解く**

窯の構造、炎の動き、土や釉薬の違いを知り、作品ごとに異なる表情が生まれる理由を考える。

◆ **丹波焼の魅力を未来へどう伝えていくか**

作品の見方や職人（陶工）の言葉から、丹波焼の価値を未来へ届けるためのアイデアを探る。

850年続く窯の文化とつくり手

丹波焼は、日本六古窯の一つとして約850年の歴史を持つ焼き物です。

自然の土、薪窯の炎、職人の技が合わさり、一つとして同じものがない深い表情が生まれます。
今田町（こんだちょう）は、その丹波焼の中心地であり、窯元が約60軒が集まる全国でも珍しい“焼き物の町”です。

Pottery

伝統を守りつつ、進化させるため、自分らしい丹波焼に挑み続けています。

Real Story

ココチ舎（ここちや） 市野 雅利

およそ850年の歴史を受け継ぐ丹波焼は、なぜ時代を超えて愛されてきたのでしょうか。また、兵庫の山里に多くの窯元が集まるのは、どんな理由があるのでしょうか。伝統を大切にしながら新しい表現にも挑む職人の世界に、ぜひ触れてみてください。

項目	プランA	プランB
実施場所	立杭陶の郷	
実施時間	10:00 ～ 12:30	10:00 ～ 12:30
実施人数	40名まで	40名まで
実施費用	2,500円（税込）	3,500円（税込）
ご注意	※動きやすいパンツスタイルでのご参加をおすすめいたします。 ※プランA料金に陶芸体験1,100円＋入館50円が含まれます。 ※1,100円からの差額で、別の体験もご選択いただけます。	

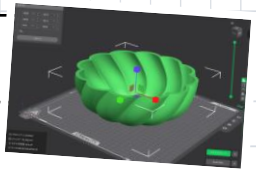
プランA　立杭陶の郷で“陶芸体験＋丹波焼の未来”を考える

丹波の歴史と魅力発掘＆陶芸体験

10:00	**立杭陶の郷　集合**
10:05	**イントロダクション（30分）** ＝ TAMBA GATEWAY CENTER ＝ 丹波焼が生まれる里山の風土とものづくりの背景に触れる 陶芸体験につながる基礎知識と視点を学ぶ
10:35	**陶芸体験＆ワークショップ（100分）** “誰のため”“何のため”から発想する陶芸デザイン 自分のためではなく、誰かのために陶芸作品を作る 使う人を想いアイデアと工夫を詰め込む 陶芸体験後、班ごとにアイデアや工夫を発表（共有） 陶芸家が立ち会い、アドバイス・講評 ※繁忙期には立ち会えない場合があります
12:15	**質疑応答（15分）**
12:30	**終了**

プランB　窯元の職人（陶工）と丹波焼の魅力を深堀り

“作る人”に会いに行くリアルスタディ



10:00	**立杭陶の郷　集合**
10:05	**イントロダクション（40分）** ＝ TAMBA GATEWAY CENTER ＝ ＆窯元横丁：当日伺う窯元の作品を見学 作品の印象を言語化（ワークシートに書き留める）
10:45	**フィールドワーク＆ミニ講座（75分）** 窯元横丁に作品を展示していた職人を訪問（班別） ・見学した作品の印象を伝える ・原材料と技法を間近に見る ・生産者の想いに触れ、丹波焼の世界を深く知る ・気になること、気づいたことを質問してよう ミニ講座「化学の時間」 @kamanjo ・土・釉薬・焼成など焼き物を化学的に解説
12:00	**まとめ・質疑応答（30分）**
12:30	**終了**

丹波の歴史と魅力発掘＆陶芸体験

丹波焼の特徴やその伝統の
継承について、自分なりの
疑問”Why”を探してみよう！

事前学習

1. 丹波焼と職人の仕事を調べよう
丹波焼が日本遺産「日本六古窯」の1つに選定された理由は？

2. 丹波焼と職人の仕事を調べよう
丹波焼にはどのような特徴がある？（特徴をまとめよう）

3. 丹波焼と職人の仕事を調べよう
丹波焼が長く続いてきた理由は？

4. “誰のため”“何のため”から陶芸デザインを考えよう
当日作る作品について、使う人と用途を決めよう

5. “誰のため”“何のため”から陶芸デザインを考えよう
使う人が喜んでくれそうな工夫を書こう

6. “何のため”“誰のため”から陶芸デザインを考えよう
陶工（職人）に現地で聞きたいことは？

“作る人”に会いに行くリアルスタディ

窯元の職人(陶工)に
聞いてみたいことを
事前に整理しよう！

事前学習

1. 丹波焼の技と工程を調べよう
丹波焼の今と昔を調べよう？(変わってきた部分、変わらない部分)

2. 丹波焼の技と工程を調べよう
丹波焼の作品を複数調べ、作品ごとの特徴を見つけよう

3. 丹波焼の技と工程を調べよう
釉薬(ゆうやく)とは何で、どんな役割がある？

4. 技の違いと職人の工夫を考えよう
丹波焼の職人にはどんな技術が必要だと思う？

5. 技の違いと職人の工夫を考えよう
あなたが思う丹波焼職人の魅力とは？

6. 技の違いと職人の工夫を考えよう
丹波焼職人に現地で聞きたいことは？

課題解決型

里山の保全と地域の未来を考えるプログラム

里山の実態を学び 持続可能な未来を探る

学習のねらい

さともん

◆ 里山で起きている課題を知る

サル・シカ・イノシシなどによる獣害の被害状況と、その対策を学ぶ。足跡や痕跡をさがし、人の暮らしと自然が接する里山のリアルを理解する。

◆ 里山に暮らす住民の思いにふれる

獣害に悩まされながらも地域に暮らし続け、住民の方々へのインタビューや講話を通して、その価値観・地域への想いを知り、共生の本質を考える。

◆ 里山を未来へつなぐために自分たちができることを考える

里山を守ることが人間の暮らしにどんなメリットをもたらすのかを理解し、持続可能な里山の未来づくりに向けたアイデアを考える。

獣がい対策で農村の未来を創る

里地里山では、サルやシカ・イノシシなどによる“獣害”が深刻な問題になっており、高齢化や人口減少で対策が難しくなっている地域も少なくありません。
一方、野生動物は本来、里山の豊かさを支える存在でもあります。そこで「害」を減らしながらも、多様な人たちが参加することで新たな交流や共感を生む前向きな取り組みを“獣がい対策”と呼び、地域を元気にすることを目指しています。

Wild animals

Real Story

NPO法人里地里山問題研究所（さともん） 鈴木 克哉

獣がいは、動物だけの問題ではなく、里山の環境や地域の暮らしと深くつながる課題です。現場で見て聞いて考えて、地域と野生動物の“よりよい関係”についていっしょに考えましょう。

項目	プランA	プランA ＋ プランB
実施場所	各地区	
実施時間	10:00 ～ 12:30	10:00 ～ 15:00
実施人数	40名まで	40名まで
実施費用	3,500円(税込)	5,500円(税込)
ご注意	※汚れても良い服装歩きやすい靴でご参加をお願いします。 ※ご希望に応じて黒豆づくし弁当・地元の食文化体験などの昼食のご用意も可能です。	

プランA

動物の視点で里山を歩く

獣害対策のリアルに迫る

10:00	指定場所へ集合（観察エリアによる）
10:05	**イントロダクション（15分）** スタッフより各地区の特徴や獣害の実態についての説明指定場所周辺の本部またはバス車内
10:20	**フィールドワーク&ワークショップ（110分）** スタッフとともに集落を歩き、獣害の実態やその対策について対話的に学び、気づいたことをその場で言葉にしていく。 ※2班（最大20名ずつ）に分かれての体験 ①サル調査班・・・サル探し、痕跡探し、電気柵の点検など ②シカ・イノシシ調査班・・・獣害柵の点検、痕跡探しなど
12:10	バスにて本部へ移動（10分）・まとめ（10分）
12:30	終了

プランB

里山に暮らす人々の想いに触れる

里山保全の意義と地域の未来を考える

13:00	指定場所へ集合（観察エリアによる）
13:05	**振り返り（15分）** 午前中に感じたことや発見したことを他の班の人と共有しよう！
13:20	**フィールドワーク（60分）** 里山に暮らす人の声を聞く：暮らし・野生動物・未来への想い 事前学習やフィールドワークを通じて、感じたことを自分自身の言葉を使ってインタビューをしよう！
14:20	**ワークショップ（30分）** 事前学習やフィールドワーク、地域の方との交流を通して、“自然との共生”をテーマに里山を守る意義とその継続的な保全について考える。
14:50	質疑応答（10分）
15:00	終了

獣害対策のリアルに迫る

獣害に関する複雑な要因や
多様な考え方について
事前に調べてみよう！

事前学習

1. 獣害の現状と対策を調べよう

獣害とは？被害の多い動物は？その原因は？

2. 獣害の現状と対策を調べよう

獣害が地域に与える影響は？

3. 獣害の現状と対策を調べよう

どんな獣害対策が行われている？

4. 獣害を自分ごととして考えよう

獣害は私たちの生活にどんな影響がある？

5. 獣害を自分ごととして考えよう

自分だったら、どうやって獣害を減らす？

6. 獣害を自分ごととして考えよう

里山の人に聞きたいことは？

里山保全の意義と地域の未来を考える

人と自然が共存する未来は
どのような形がよいか
考えてみよう！

事前学習

1. 人と野生動物が共に暮らすために できることを考えよう

里山とはどんな場所？自然との距離や関わりは？

2. 人と野生動物が共に 暮らすためにできることを考えよう

人の暮らしと自然音両方を守ることが必要な理由は？

3. 人と野生動物が共に 暮らすためにできることを考えよう

人と野生動物の望ましい関係は？

4. 多様な人材で地域の未来と獣がい対策を考えよう

被害を減らすためにみんなでできることは？

5. 多様な人材で地域の未来と獣がい対策を考えよう

里山の獣がい対策に関わる人を増やすには？

6. 多様な人材で地域の未来と獣がい対策を考えよう

現地で注目したい、聞いてみたい点は？

課題解決型

体験型ミュージアムの役割と運営を

多角的に学ぶプログラム

利用者と運営者の視点から“学びの場”の設計を考える

学習のねらい

- **この施設が生まれた背景と役割を理解する**

  廃校活用、地域との関わり、遊びと学びを両立する仕組みを知る。

- **利用者と運営者、それぞれの視点で“場づくり”の工夫を捉える**

  利用する側の価値とつくる側の運営・企画の工夫を多角的に見る。

- **よりよい“学びの場”とは何かを考える**

  お話や体験を通じて得た気づきをもとに、
  理想的な体験・学びの場の条件やアイデアを提案する。

篠山チルドレンズミュージアム

里山で遊び学ぶ体験型ミュージアム

篠山チルドレンズミュージアム(愛称:ちるみゅー)は、旧多紀中学校の木造校舎を活用して生まれた、里山の中にある体験型ミュージアムです。豊かな自然に囲まれた敷地では、裏山や水路での自然体験、芝生広場での遊び、木のぬくもりを感じる木製玩具や工作活動など、子どもたちが五感を使って学べる環境が整えられています。館内では、日本や世界の子ども文化に触れられる展示や、人形劇、ワークショップなど、多様な体験を通して想像力や表現力を育みます。この施設は、子どもたちの“やってみたい”という気持ちを大切にし、遊びを通して生きる力を育むことを目的とした、地域に開かれた学びの場です。

Real Story

篠山チルドレンズミュージアム　館長　垣内 敬造

ここは、かつて中学校だった木造校舎を大切に生かしてつくられた施設です。建物に思い出をもつ地域の人々の記憶を受け継ぎながら、子どもたちが遊びを通して学び、地域の自然や人に支えられて育つ場です。里山の暮らしやこの施設を支える側の視点で、自分にできる関わりを考えてみてください。

項目	プランA	プランA＋プランB
実施場所	篠山チルドレンズミュージアム	
実施時間	10:00 ～ 12:30	10:00 ～ 15:00
実施人数	40名まで	40名まで
実施費用	3,500円(税込)	5,500円(税込)
ご注意	※本プログラムおける年下の子どもとの関わりは、篠山チルドレンズミュージアムの日常的な活動の一環として行われます。※本プログラムは、学校での探究学習(まとめ・発表)へと接続可能です。	

プランA

利用者と運営者の双方から考える

里山施設から“場づくり”を多角的に学ぶ

10:00	篠山チルドレンズミュージアム集合
10:05	**イントロダクション（20分）** チルドレンズミュージアムの設立経緯（目的、助成、廃校活用）地域の子育て世代・小学生を中心とした活動拠点としての意義
10:25	**フィールドワーク（75分）** 利用者目線・運営者目線の両方で施設体験 木製玩具、芝生広場、裏山、屋外キッチン、工作室 ※ローテーションで活動
11:40	**ワークショップ（40分）** フィールドワークで得た気づきの共有 よりよい施設にするための工夫やアイデアの発表
12:20	質疑応答（10分）
12:30	終了

プランB

運営視点を学び理想の施設を設計

地域資源活用で施設の形をデザインする

13:00	篠山チルドレンズミュージアム集合
13:20	**ミニ講座（20分）** 地域資源の活用とは（廃校などの活用事例紹介） 現実的な条件（建物、立地、人、費用、安全、維持管理）
13:40	**ミニ講座（20分）** 安全面への配慮、利用者満足度、親目線と子ども目線
14:00	**ワークショップ（50分）** 自分の地元または好きな町に“自分だけのチルドレンズミュージアム”をつくるとしたら？その町の魅力や特徴を踏まえ、どんな資源を生かす？誰が利用する？どんな設備や工夫を盛り込む？班ごとにアイデアをまとめ、オリジナルミュージアムの企画を発表！
14:50	質疑応答（10分）
15:00	終了

プラン
A

ワークシート

里山施設から“場づくり”を多角的に学ぶ

利用者と運営者の両方の
視点を想像して、自分なりの
疑問”Why”を探してみよう！

事前学習

1. 施設の役割と運営を調べよう

篠山チルドレンズミュージアムとはどのような施設？

2. 施設の役割と運営を調べよう

どのような人や仕事が関わっている？

3. 施設の役割と運営を調べよう

安心して過ごせる場所をつくるための工夫は何だと思う？

4. 学びの場を提供し続ける意義を考えよう

施設を続ける上で一番大変そうだと思う点は？

5. 学びの場を提供し続ける意義を考えよう

大変だけど、続けていく意義・価値は何だと思う？

6. 学びの場を提供し続ける意義を考えよう

運営者に聞いてみたいことは？

Satoyama Quest in Tambasasayama

ワークシート

地域資源活用で施設の形をデザインする

もし、自分が地域で施設を
設計・企画・運営するとしたら？

事前学習

1. 子どもの学びの場を調べよう

子どもが体験を通して学ぶ場にはどのような種類がある？

2. 子どもの学びの場を調べよう

そこではどのような体験ができる？

3. 子どもの学びの場を調べよう

地域や社会には、子どもの学びのためにどんな役割がある？

4. 理想の学びの場を考えよう

“また行きたい場所”の共通点は何だと思う？

5. 理想の学びの場を考えよう

あなたならどんな体験を大切にした施設をつくる？

6. 理想の学びの場を考えよう

現地で聞いてみたいことを“問い”として書きだしてみよう

町歩き型

城下町の散策と対話型ワークショップで、歴史探究の面白さと意義を体感するプログラム

Satoyama Quest in Tambasasayama

城下町の魅力と保全の意義を考える

丹波篠山城下町　班別自主研修

美しい町並みが残る丹波篠山の城下町を舞台に、フィールドワークとワークショップを通して地域の魅力を体感するプログラムです。
入場、買い物、食事中心の班別研修ではなく、事前学習から当日のワークショップを一連でサポートし、深い学びを実現します。

学習のねらい

- **城下町の歴史と暮らしに触れ その魅力や疑問点を見つける**
  歩く・見る・聞くを通じて得た気づきを記録する。
- **対話型ワークショップで学びを深める**
  地域住民・旅行者・施設運営の それぞれの視点とその違いを整理する。
- **観光資源の保全と魅力の発信について考える**
  現地体験をもとに活かし方・守り方・発信の仕方のアイデアを考える。

丹波篠山を愉しむ。　丹波篠山に暮らす。

01 篠山城大書院	テーマ：人　人数：60名まで
02 青山歴史村 デカンショ館	テーマ：文化　人数：60名まで
03 歴史美術館	テーマ：地理　人数：30名まで
04 武家屋敷安間家史料館	テーマ：生活　人数：30名まで

料金	500円（税込）＋入館料
実施時間	10:00～13:00　または　13:00～16:00
実施人数	プランA　プランAは、各見学施設でのワークショップ！
	4施設同時：180名（半日：2回／終日：4回 実施可）
	プランB　人数制限なし　プランBは、街頭インタビュー！

※日程により実施できない場合がございます。
※プランBにはワークショップは含まれておりません。事前に各自で学習を行っていただいたうえで、施設見学および周辺の散策をしていただきます。また、町の方への街頭インタビューが可能です。

プランA　希望のワークショップを選んで・聞いて・考える

ワークショップ型探究プログラム

10:00	三の丸西駐車場 集合
10:30	ワークショップ（20分）※1施設目 4文化施設にて同時にワークショップを開催 ※希望のワークショップを事前に選択しておく ※ワークショップ詳細は次ページ
11:30	ワークショップ（20分）※2施設目 4文化施設にて同時にワークショップを開催
13:00	昼食を済ませて　三の丸西駐車場 集合

プランB　各自で観光ルートを考える

町歩きプランニング＆フィールドワーク

10:00	三の丸西駐車場 集合
10:30	フィールドワーク（90分） 事前学習にて計画した観光プランに沿って町歩きを実施 ※4文化施設に訪問（見学のみ／ワークショップなし） ※2館共通券（400円） または ※4館共通券（600円）
12:30	昼食を済ませて　三の丸西駐車場 集合

プラン A

各ワークショップのプログラム内容

01 篠山城大書院のワークショップ

目的・概要

篠山城大書院は丹波篠山市の“顔”とも言える、観光の目玉です。城跡内を周り、篠山城をより人々に知ってもらえるおすすめポイントとキャッチフレーズを考え、観光の広報について学びます。

【篠山城大書院】住所：〒669-2332　丹波篠山市北新町2-3
営業時間：9:00～17:00（受付16:30まで）

効果

文化財の観光利用について学びます。文化財を有効的に活用することが、地域文化を守ることに繋がるのかへの理解を深めます。

02 青山歴史村・デカンショ館ワークショップ

目的・概要

藩主の別邸や長屋門を訪れ、当時の暮らしや城下町とのつながりを考えます。また珍しい資料やデカンショ節の歌詞、踊りから地域が歴史や文化を守ってきた過程を学び、文化継承の工夫を考えます。

【青山歴史村・デカンショ館】住所：〒669-2332　丹波篠山市北新町48番地
営業時間：9:00～17:00（受付16:30まで）

効果

城下町と暮らしの関係を理解し、地域文化の価値や継承の重要性に気づきます。デカンショ節を通じて、伝統文化への理解が深まります。

03 歴史美術館のワークショップ

目的・概要

篠山城周辺が、明治時代以降も城下町の中心であり続けた理由を考えます。この地に裁判所がその形を変えつつ残っている背景を裁判体験形式で学びます。

【歴史美術館】住所：〒669-2322　丹波篠山市呉服町53
営業時間：9:00～17:00（受付16:30まで）

効果

城下町の価値を守るための工夫を知り、地域文化の重要性を認識します。また、住民同士の協力に触れ、文化継承の意義に気づきます。

04 武家屋敷安間家史料館ワークショップ

目的・概要

御徒士町で起こった江戸時代の災害を教訓とし、防災の仕組みと受け継がれる街づくりの姿勢を理解します。また、実際に昔の生活道具に触れ、先人の知恵を学び、現代生活の便利さを再認識します。

【武家屋敷安間家史料館】住所：〒669-2334　丹波篠山市西新町95
営業時間：9:00～17:00（受付16:30まで）

効果

景観を守る意義を理解し、歴史や文化を継承する重要性に気づきます。また、人々の暮らしや選択を知り、地域とのつながりの価値を認識します。

プラン
B

フィールドワークの進め方

ワークショップなしで実施するプランです。参加者には、オリジナル地図をお渡しします。
事前に地図を見ながらルートを考えたり、インターネットなどで自分自身で事前学習を
行うことで、町の歴史や見どころを理解していただきます。
当日は、事前に立てた計画に沿って城下町を歩き、各施設の見学も自由に行うことができます。
自分たちで調べ、歩き、確かめながら学ぶ、町歩きプランです。

プログラム詳細

目的・概要

- 城下町を歩き、“魅力”を自分で見つける探究姿勢を育てる。
- 城下町の構造・文化財・商店街の工夫などを体験し、地域の理解と郷土愛を深める。
- 観光をテーマに、歴史・地理・公民など多教科とつながる社会的な学びを体験する。

効果

- 自ら問いを立てて学ぶ“探究力”
- 町を観察し読み解く“地域理解”
- 意見をまとめ、伝える“コミュニケーション力・表現力”
- 観光まちづくりを考える“社会的な視点”

進め方

【事前学習】 参加者にはオリジナル地図を配布し、
事前にルート検討やインターネットでの自主学習を行います。
【当日】 計画に沿って城下町を歩き、自由に施設を見学。
自ら調べ、歩き、確かめて学ぶ街歩きプランです。

＼ 補助資料としてこちらのオリジナル地図をお渡しします！／

★ホームページでも情報発信しています。https://withsasayama.jp/tourism/

2024年秋 発行：一般社団法人ウィズ

プラン
A

篠山城大書院のワークショップ

篠山城や城下町の歴史を紐解き、
自分なりの疑問
“Why”を探してみよう！

参加するワークショップを決め、その施設の学習を進めましょう！

事前学習

1. 篠山城がどんな城か調べよう

篠山城は、どのような目的で築かれた城か？

2. 篠山城がどんな城か調べよう

大書院は、どのような場として使われていた建物か？

3. 篠山城がどんな城か調べよう

篠山城を調べて気になったことをメモしておこう。

4. 篠山城を知ってもらう方法を考えよう

他のお城で良く使われる写真はどんな写真？

5. 篠山城を知ってもらう方法を考えよう

他のお城や観光地を調べていいなと思ったキャッチフレーズは？

6. 篠山城を知ってもらう方法を考えよう

篠山城の“売り”になることは何か考えよう

プラン
A

青山歴史村・デカンショ館のワークショップ

篠山城や城下町の歴史を紐解き、
自分なりの疑問を持ってみよう！

参加するワークショップを決め、その施設の学習を進めましょう！

事前学習

1. 文化と暮らしの歴史を調べよう
青山歴史村には、どのような建物や資料がある？

2. 文化と暮らしの歴史を調べよう
デカンショ節は、どのように広まったのか？

3. 文化と暮らしの歴史を調べよう
デカンショ節はどのような場面で唄われる歌か？

4. 町並み・文化を保存する意義を考えよう
生活や文化を“残す”ためにできることは何だろう？

5. 町並み・文化を保存する意義を考えよう
文化を残し続けることの難しさは何だと思う？

6. 町並み・文化を保存する意義を考えよう
あなたが次の世代に残したい“地元の文化”とその理由は？

歴史美術館のワークショップ

篠山城や城下町の歴史を紐解き、
自分なりの疑問を持ってみよう！

参加するワークショップを決め、その施設の学習を進めましょう！

事前学習

1. 町の変化と建物の役割を調べよう

歴史美術館は、もともと何に使われていた建物か？

2. 歴史ある建物の役割を調べよう

1.の答えから、その建物の成り立ちを調べてみよう

3. 建物を活かす意義を考えよう

建物の使い方を変えながら残すことには、どんな意味がある？

4. 町の変化と建物の役割を調べよう

どんな工夫によって建物や機能が引き継がれてきた？

5. 建物を活かす意義を考えよう

新しく建てる？古い建物を活かす？あなたはどちらが好き？

6. 建物を活かす意義を考えよう

町並みや建物を保存していく意義とは？

プラン
A

武家屋敷安間家史料館のワークショップ

篠山城や城下町の歴史を紐解き、
自分なりの疑問を持ってみよう！

参加するワークショップを決め、その施設の学習を進めましょう！

事前学習

1. 城下町の暮らしを調べよう

御徒士町の立地にはどんな意味があるか調べてみよう？

2.住み続ける町の価値を考えよう

重要伝統的建造物群保存地区に住み続ける理由を考えてみよう

3. 武家屋敷のある御徒士町通りと自分の住む町の違いを見つけよう

自分の住む町の写真を撮って見比べてみよう

4. 安間家母屋と自分の住む家の違いを見つけよう

素材や造りは現代の家とどこが違う？

5. 火事から学んだ町づくり

皆さんの住む町の防災対策（火災）を調べてみよう

6. 住み続ける町の価値を考えよう

古い町並みが残るこの町に、あなたは住んでみたいですか？

Satoyama Quest in Tambasasayama

ワークシート

丹波篠山城下町の観光プランをたてよう

城下町めぐりの観光プランを
具体的に考えてみよう！

事前学習

1. 丹波篠山を訪れるお客様ってどんな人？

観光プランのターゲットを決めよう

A 修学旅行生　B 20代カップル

C 家族連れ　D 高齢夫婦　E 外国人観光客

2.ターゲットが好みそうな観光スポットはどんなところ？

ターゲットが求める観光施設はどんなもの？

3. どんな観光施設があるか調べてみよう

丹波篠山城下町マップ内の見学スポットについて調べてみよう。

4. 観光プランを考えよう

見学スポット、ルート、滞在時間など具体的に考えてみよう

5. “ツアー名”を考えよう

ターゲットに届くツアーの名前を考えてみよう

6. このツアーのおすすめは？

このツアーを売り込むならどんな売り文句がある？

町の人たちにインタビューしてみよう

篠山城や城下町の歴史を紐解き、
自分なりの疑問を持ってみよう！

事前学習

1. 町の人にインタビューする内容を考えてみよう

インタビュー内容その1

2. 町の人にインタビューする内容を考えてみよう

インタビュー内容その2

3. 町の人にインタビューする内容を考えてみよう

インタビュー内容その3

当日学習

町の人にインタビューしてみよう

回答を記入しよう

町の人にインタビューしてみよう

回答を記入しよう

町の人にインタビューしてみよう

回答を記入しよう

プラン B

ワークシート

自分たちが作った観光プランを歩いてみよう

篠山城や城下町の歴史を紐解き、
自分なりの疑問を持ってみよう！

当日学習

1. 入館した施設、観光スポット

観光プランに必要な情報を記録しよう

2. ルート上に公衆トイレはありましたか

公衆トイレはターゲットに適したものだったか？

3. 設計ルートはイメージどおりでしたか

ルート変更が必要であれば具体的に書いてみよう

4. 歩いてみて困ったことはありましたか

どこでどんな大変な事がありましたか？

5. 観光プランルートの良い所

実際に歩いてみて良かったところを書き出してみよう

6. 観光プランルートの改善点

実際に歩いてみて見えた改善点を書き出してみよう

観光ツアーを設計してみよう

篠山城や城下町の歴史を紐解き、
自分なりの疑問を持ってみよう！

事後学習

1.現地調査で歩いて得た情報をツアーに反映させよう

ターゲットに対して時間配分や行程、見学施設選びに改善点はなかったか

2.インタビューした町の人の声を反映させよう

インタビューで得た情報をツアーに反映させてみよう

3. 歩いてみて危険な場所はありましたか？

ルート設計は問題なかったか（交通量・アップダウン）

4. 観光ツアーを完成させてください。

見学施設、食事処、時間配分を決めてツアーを設計してみよう。

出発地点　　出発時間

ゴール地点　　到着時間

プログラムのお問い合わせ先

地域限定旅行業797号

ウィズささやま

with sasayama ウイズささやま

一般社団法人ウイズささやまは、丹波篠山エリアを専門とする地域限定旅行会社です。地域の歴史・文化・暮らしに根ざした体験を通して、訪れる人と地域の人をつなぎ、双方に“新たな気づき”と価値が生まれる旅を創出しています。

一般社団法人 ウイズ ささやま

information

〒669-2321
兵庫県丹波篠山市黒岡191
丹波篠山市民センター内

電話 :079-552-7373
FAX:079-552-4680

10:00～17:00 休 土・日・祝

tour@withsasayama.jp

memo

丹波篠山

Tambasasayama